

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 藤苑 (はるか)	評価実施年月日	平成20年3月24日
評価実施構成員氏名	松井 菜穂子 神元 みちよ 村上 直子		
記録者氏名	松井 菜穂子	記録年月日	平成20年3月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

☐ は外部評価項目

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
☐	1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	伏古福祉会の理念をグループホームの理念としているが、ユニット毎にも独自の理念もあげている。又、毎年各ユニットで今必要な事、求められていることを職員全員で考えその年の目標としている。	○	理念を踏まえた各ユニットの目標は職員全員で毎年各フロアー会議で現在入居なさっている利用者又は職員の状態を考えながら作成している。はるかの今年度の目標は「できる事・できない事を介護者が決め付けず、与える介護にならないように常に自主性を引き出す。」である。
☐	2 〇理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	年度末の会議で今年度の反省と来年度の目標を話し合い、毎月の例会で確認しあっており、根底にある理念を見失っていないか常に前向きに取り組んでいる。	○	ケアに対する意識・考え方が全職員が同じ方向性を持って対応できるように取り組んでいる。
☐	3 〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会、運営推進委員会、理事会に図りいろいろな意見を頂く中で、訴え理解してもらっていると思う。	○	今後は広報活動を通して地域にも浸透するように活動を活発にしていきたい。
2. 地域との支えあい				
☐	4 〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	この5年間の中で、近所の方々には色々な場面で助けていただいている。毎年一番に咲いた花を持ってきてくださる方もいらっしゃる感謝の気持ちで一杯である。散歩の際はお年寄り全員で大きな声で挨拶し、立ち話に花を咲かせている。	○	当苑の入居者も地域の一員である事を職員も念頭に置き、いくつになっても社会性を失わないように支援していきたい。
☐	5 〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	代表は自治会の役員でもあり、町内会長は法人の理事でもあるので、町内会の活動にはできるだけ参加している。グループホームの夏祭りでは、いつものお礼として来てくれる町内会の方々に食事を提供し、グループホームをより知ってもらう機会としている。	○	散歩に出掛けた際は、ライヴ練習をしている高校生に声を掛け、当苑でも演奏してもらったり、大学のサークル代表に電話落語研究会に来てもらったりしているが、今後も若い世代も含め、地域の方々にグループホームという老人施設を知ってもらう機会をもっていきたい。
☐	6 〇事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	上記の取り組みはしてきたが、見学者や電話での相談が増えていく中で、地域の高齢者の状況をもっと把握していく必要性を感じている。職員との話し合いの中で気楽に立ち寄り、安心して身内を預けられるところがあるということを知っていただくような取り組みをしていくことを、来年度の計画にあげている。	○	・同事業所の認知症対応型通所介護や居宅支援事業所との連携を図り、定期的な勉強会(事例報告など)を行う中で地域でのグループホームの役割を明確にしていく。また、広報誌などで行事などにも参加を呼びかけ気楽に遊びに来ていただけるような開かれたグループホームを目指していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	すぐに改善できる事はすぐに行っている。地域に向けての広報誌の発行については、今年度も実施されなかった。	○	何故実施されなかったかを話し合ったところ目的意識が明確になされていなかったことが挙げられ、今年度は地域での取り組みの充実を図ることが事業計画の最優先に挙げた事もあり、それに伴い広報誌発行の実現に繋げていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議も定着してきており、意見交換も活発化してきている。そこで話し合ったことは必ず例会に持ち寄り、意見を真摯に受け止めたり、具体的な活動に活かしている。	○	運営推進委員の構成員にもっと地域の方に入って頂き、地域の情報を得たいと思っている。20年度から2名の地域の方の参加が決定している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者との連絡は頻繁に行っているが、サービスの質の向上に関して共に取り組んでいるという実感はない。	○	区からの情報をもっと取り入れ連携を強める事で、開かれた施設へ繋げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度に関しては研修にも参加し、ある程度の理解をしているが、今まで入居されている方々が必要性が無い為具体的なことはあまりわかっていないと思う。また権利擁護に関しては、グループホーム協議会で出されたものを玄関に掲示し職員にも浸透している。	○	今後必要な人には、勿論活用して行きたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修にも参加しており、絶対あってはならないことではあるが、誰でもがストレスを抱えると自分の行動が分からなくなる事もありえることを念頭に置き職員に関してはストレス発散の場を設けたり話し合う機会を多く持つようになっている。	○	現在抱えているストレスを気楽に常に言える環境にし、失敗してしまったことも隠さず話せるような職員間の関係を築いている。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ前にも何回か利用者・ご家族とお会いし、当苑の理念・方針を話、理解して頂く様にしている。		

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接訴える事が出来る方々の意見は日々の話の中で不満を貯めないような声かけを行っていると思う。又、すぐにできないことは、ご本人が納得できるように徹底して話す機会を設けている。また、訴えることが出来ない方に対しても表情・しぐさを見極め対応を行っている。	○	ほぼ毎日来てくれているボランティアの方々にも協力してもらい不満を聞きだすようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のお便りの中で報告させてもらい、面会の際には、詳細を話し、家族の意向を聞いている。	○	行事等で写した写真やお小遣い帳の写しも送付しているが新しい職員の写真や担当者の写真もコメントと一緒に送るようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を各ユニットごとにおいても意見が入っている事が無い為、苦情箱は置かないことになったが、外部評価のアンケートを参考にし、年一度家族会総会の前にはアンケートを送付し、無記名でいろいろな意見を書いていただく機会を設けている。	○	年1度の総会時だけではなく、家族と職員の交流会を開く事になっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は自由に意見を少なくとも管理者には言える環境にあると思う。	○	年に一度が運営者との話し合いの機会を設定し、今職員が悩んでいる事や、考えている事を話す機会を設けて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	常に職員体制を日勤で4～5名確保しているので柔軟な対応は可能である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動に関しては年に2ユニット1名を限度にしている。離職に対しても話し合いの場を多く持ち、職員が辞めないように努力しているが今年度はいつもに無く離職者が多かった。	○	運営者・管理者と離職した原因を考えていく中で、各立場でも考え改善できる事は努力し、職員一人一人が満足して働ける環境にしていく。また、職員のモチベーションを上げる為にも常に自分たちの仕事を明確にし目標を目指して一致団結していくことが利用者にも通じ、より良い関係を築くことに繋がるということを認識する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○	今後は当苑独自の人事考課も考慮し、職員が今目指すところを各人明確にし、良いところや今後も継続してほしい所も評価し、人材の育成に力を入れて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	今後も継続して交流を深めていき交流会の仲間を増やして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	新しい職員が増えた中で、何でも話し合える雰囲気を作っていきたい会食などを利用して話す場を多く持つように特に今年度を職員間の信頼関係を気づき仲間意識を強めて行きたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	○	運営者は職員と個々に話し合う時間をもっと持ち、グループホーム全体の今後の発展のために今しなければならぬことを考え一緒に向上したいという気持ちを職員に伝えていく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○	情報収集した事を共有できるように周知・討議を行い柔軟な対応ができるように取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○	ご家族のご本人に対する思いを受け止めご家族が何を一番望んでいるかを見極め期待に沿えるように家族と共にご本人を支援している事を理解していただく

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望のご家族にはまず、見学に来ていただき、できればご本人にもきていただくようにしている。ご本人に当苑を見ていただく中でご本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には通所サービスや訪問サービスを紹介したこともある。	○	ご家族の相談にも時間をとり、今何がご本人にとって必要か最善な方法を一緒に考え相談に乗っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の際はご家族にも確認の上歓迎会を開かせていただき、入居者の皆さんや職員を紹介し、最初の2週間くらいは、ご家族にも出来るだけ来苑していただくように話している。	○	第一段階の見極めの時期は常に柔軟な対応が出来るように職員の思い込みにならないように情報や家族との話を常に念頭において見極めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	掃除等の家事を自ら手伝いたいと希望される方々には、職員と共に談話しながら、行っていたり、踊りが好きな方々と共に踊って大笑いしたり等、毎日、様々な話題の中で、喜怒哀楽を共にし、前向きに考える人生を学んでいる。	○	本人が居心地良く過ごすためになにが大切かを常に職員間で話し合い一人ひとりがリラックスして生活してもらえるような支援を目指している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ある家族は面会に来られる時、レク、茶話会、リハビリ体操に参加したり、食器拭き等の家事を他老と行ったりと、共に時間を過ごす事が楽しいと言ってくれる。またある家族は、入居者の食事介助をしながら、本人が家で暮らしていた頃の話をしてくださり、本人についての話題を職員と共有している。	○	ご家族も好きな事がいえる環境に少しずつなっていると思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	それぞれの方々が在宅の際、築いていた関係を苑でも同じように続けていけるように支援している。面会の際には、必ず日頃の暮らしぶりを話し、理解していただいている。日常的には、本人と「家族について」話題にし、家族の存在を忘れてしまわぬように努めている。	○	殆どの利用者は本人、家族の関係は良好で毎日来苑する家族もいらっしゃる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	兄弟・親戚・友達が常に自由に出入りなさっている。	○	ご家族にも友達関係が途絶えないように協力して頂き、遊びに来ていただいている。

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	少ない人数の中で気の合わない人、好まない人がおり、普段余り関わりを持たない同士でもレクや散歩等で職員が見守りながら、ある程度の距離を置いて関わってもらっている。逆に気の合う人同士で、楽しみを共有している姿もある。自分で気の合う方を発見できない方は、職員が見極めて設定すると、和やかな表情を見せて落ち着いている。	○	はるかの皆が自分の仲間であるという気持ちになって頂きたいと思っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	はるかでは、契約終了になり特養に入所された方が一人いて、いつも顔を見にいつていたが、現在は亡くなっている。また、ある家族は、契約終了後でも介護用のオムツの相談等をしていく方もいらっしゃる。	○	今後も今まで築いた関係を継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の申し送りや、毎月の会議の中で、職員は入居者の情報を共有し、話し合いを持っている。そしてその時の入居者の思いを知り、支援に繋げている。	○	常に中心となるのは本人の思いであることを、忘れず自分から表現出来ない方への対応も表情・行動を見極めて本人の気持ちに添っているか確認しながら援助している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を取り入れ、ご家族にも詳しく生活歴を書いて頂き、又お話のできる方には職員が昔の事を聞く中で暮らし方や生活環境を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日誌にはその日の生活状態を書き、毎月のケースには一ヶ月の状態をまとめている。又一人ひとりに担当をつけ個人を常に総合的に見るように努めている。	○	今年度より、毎月のケース記録を実施する事によって一人ひとりを総合的に見られるようになって来た。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成者中心に毎月モニタリングを行い、サービスケア更新時にはご家族にも出席して頂き、カンファレンスを開催している。	○	入居者の何人かが特養のシーツ交換を手伝いに行ったりしているが、今後も苑内だけに留まらず社会性をなくさない為の介護計画にもしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	個人に変化が生じた場合はすぐにご家族と共にカンファレンスを開き、新たな計画を作成している。	○	病院の医師とのカンファレンスの内容の記録を独自に作成する必要もある。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は毎日記入しており、毎月のモニタリングに活用している。	○	個別ケアに関しては、日々細かな様子まで書き、実践に生かして行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設している施設・事業所からの入居時、また反対の場合も情報を提供し合い、その都度、柔軟な支援を行うようにしている。	○	入所の際は出来る限り地域の方を優先にし、地域に還元する為にも、日常的に地域で、認知症で悩んでいる方々の情報も把握していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	同法人のボランティアひよこの会の方々が行事の度や毎日の料理の手伝いやピアノの先生が音楽療法をしてくれたりしている。また、近隣の幼稚園・小学校・中学校の生徒もボランティア活動に来苑してくれている。	○	今年度は雪祭りなどで、法人以外のボランティアの活用もさせていただいた。また、職員もボランティアとして活動する事によって繋がりができたので、今後もこのような活動もしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス業者に協力して頂き、見学等をさせていただいた。	○	今後は地域の他のケアマネジャー等との話す機会を儲け、他のサービスの内容をもっと知っていく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月ごとの運営推進会議に於いて家族会にも参加していただいたり、率直な意見をもらい協力してもらっている。	○	実際に運営推進会議の他にどんな協働があるのか知って行きたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	提携している医療機関の医師や看護師には体調に変化があった時は電話で相談したり、往診にもすぐに来てくれている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の精神科の医師との連携が出来ており、利用者の認知症の症状が低下してきた時は常に相談に乗って頂いている。	○	医師や看護師にもカンファレンス等に参加してもらったり、認知症に関する勉強会にも参加して頂きたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師が居ない為、特養の看護師に点滴を頼んだり、医療面での相談に乗ってもらったりしている。	○	今年度は医療連携体制をとって行き、医療面での充実を図りたいと思っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携病院に入院施設もある為、入院時は常に状況を連絡してくれ、出来るだけ早期の退院をこちらも望んでいる事を理解している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族全員とは終末期に入った場合の話し合いは成されている。いよいよ重度化になった場合は早期に終末期のケアプランを作成し医師・家族との話し合いも繰り返し、その都度ケアプランを作成して職員全員が周知している。	○	終末ケアのビデオを見ながらの勉強会も行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	毎月の会議に於いて、必ず重度化になっている方の今必要な事を確認し、今後の変化に備えている。	○	上記にも記したが今年度は医療連携体制をとって行きたいと思っているので、看護師に、カンファレンスにも参加してもらい、かかりつけ医の指示や意見もケア計画に入れて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	特養に変わる方が今まで2名居たが、特養に細かな情報を提供し、また転居後も変わらない介護を提供してもらっているか確認している。	○	利用者にとって負担のないように配慮する様に努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛けや対応に関しては入居者個人の誇りやプライバシーを損なわないということを基本にしている。記録の保管場所も外部から見えないところに保管している。	○	男性職員が多い中で、入居者のプライバシーや誇りをどのように維持していく事が求められるか十分に検討する必要性を感じている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	常に職員が「何でも頼める、話せる存在」であるように心がけており、言葉にできない、しない方々に対しては、職員が表情を深く読み取る努力をしている。 また、一人ひとりに合わせた言葉、表現を選んで話し、サポートしながら、最終的には、自分で判断し決定できるようにしている。	○	一人ひとりが自己決定できような支援を常に考え、その中で自分の意思を表わす事ができるような関わりをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	当然ながら一人ひとりの個性を大切にしながら、ペースを守って支援している。そして、毎日のレクの中で個性を引き出せる言葉掛けをしている。	○	職員が4名かわったことよっての入居者の微妙な変化を見逃さず、一人ひとりとの関係を早く築くようにしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	衣類や道具は、自宅から持参したものが多いが、誕生日やクリスマスプレゼントを贈る際は、本人が好むであろうものを職員間で吟味して、用意し、とても喜ばれている。理容、美容は苑外にも利用する場所はあるが、一ヶ月に一度、長く利用している美容院に来てもらっている。	○	衣類も出来るだけ本人と買いに行くようにし、本人の嗜好を大切にしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	自力で立つて運ぶ作業が出来る方々には、盛り付け、配膳、下膳等を行ってもらっている。また、食事前にメニューと料理した職員の名前を発表し、それらをおもしろおかしく、話題にしたりしている。食事中であっても、笑いやおしゃべりが絶えない時間を過ごしている。	○	5名の関係が難しく、今までは準備と後片付けだけは毎日行っているが食事作りは職員で行っていたが、今後は出来る事がまだまだ残されているので、小さなトラブルがあってもどんどん行ってもらおうと思う。

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者が現在いないので、タバコ以外の入居者が好むものを出来るだけ用意しており、希望があった時にはいつでも提供できるようにしている。	○	バイクンクに行ったり、回転寿司に行ったり、自由に行きたい所に外出している。又、外食が無理な方の為にも、施設内で居酒屋形式にしたり、バイクンク形式にしたりしていろいろ趣向を考えている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握した上で、体調を悪くない限り、本人が慣れた形をとってもらい排泄を促している。それらを支援することによって、気持ちのよい排泄に繋がっている。	○	9名中7名が排泄介助が必要な方なので、声掛けなどには特に配慮し、行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	2名の方は、毎夕食後、希望に添って入浴されている。他の方は、希望される日や身体が汚れた時等、状況に応じている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれが自由に場所を選び、フロアや居室で過ごしている。昼食後は特に眠くなる方が多いが、ソファに寝てしまう方もいて、状況により、そのまま声を掛けずに寝てもらう時もある。訴えることが出来ない方は体調をみたり、表情をうかがったりしながら、臥床してもらっている。	○	夜間の安眠には重点を置いている。今後も夜間の安眠状態が損なわれてきたら早めの対応に心がけ原因を考え夜間逆転にならないよう支援する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	センター方式の情報をもとに、本人が何を好み、何を不快と感じるか、どんな張り合いを求めているか等を知り、毎日の生活からそれらを見極めて支援している。そして、ここグループホームにも、自分の役割があるのだということを実感してもらうよう、努力している。	○	現在行っている事意外にも、もっと引き出し張り合いのある生活を送って頂きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	はるかでは、二名の方が自分のお使いを所持し、買い物に行った際は自分で支払いをもらっている。所持できない方も他の方の買い物に付き添い、買い物や支払いの様子を見ていただいている。	○	お金の管理が出来ない方が多いが買い物に行く時は出来るだけ本人に支払っていただくようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	「天気の良いから外に散歩に行きたい」という極当たり前の気持ちを大切に、見守りの中で、一人で出かけてもらう時もある。職員も同行しても良いと本人から同意が得られた際は、同行している。はるかでは、少しでも暖かくなれば、毎日のように公園等の戸外に出て、公園まで行く事ができない方は苑庭で過ごしてもらっている。どこに行きたいか、入居者の方々と相談する日もよくある。	○	現在も個人的に行きたい所があれば職員と1対1で出かけているが今後も職員体制の充実を図り、個人でも出かけられる体制をとって行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族にも協力してもらい、常々行きたいと思っていた遠くの兄弟のところにいけた方も今年度1名おり、今後もこの様な支援を継続して行きたいと思っている。	○	ボランティアの体制も充実しているので、遠出や1泊旅行も可能になってきている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	そのように希望があればいつでも支援している。手紙を書くことが好きだったが、現在は自ら書くという発想が無くなった方に対しては、ペンやハガキ、便箋を用意し、声掛けしながら見守りの中で書いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族の方は面会が多い。お盆や誕生日、正月といった行事の際は特に親戚や、本人の友人を連れて来苑される。時間によっては食事やおやつを共に食べてもらったり、本人の日頃の様子を話したりと、職員の方から積極的に明るく接している。	○	家族の来苑は一番利用者にとってうれしいことなので、いつでも気楽に来苑してくれるように常にご家族には声を掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、特養とも合同で勉強会も開き全職員が理解している。家族の同意書をとって止む終えず拘束をしなくてはならなかった方も現在は一人も居ない状態である。	○	目に見えない言動・薬などの拘束にも十分気を付け一人ひとりの言動を抑圧していないかを常に考え援助している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	天気によって、陽気に誘われるように一人で外に出掛ける方もいるが、鍵をかけることはせず、遠くから見守ることを徹底している。危険な様子がみられた時は、声掛けし、職員も同行させてもらったりしている。	○	認知症の症状が重い方が多く、今後も外に一人で出て行かれる方が増えると思うが、鍵は掛けず、外に出る理由を追求しながら落ち着いた生活を営んでいただけるように支援していきたい。

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士、入居者のプライバシーに留意しながら、常に周りの状況を伝え合い、安全に気を配っている。	○	自分を過信することなく常に利用者の居場所の状況把握に努め自由に安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	現在は異食がある方はいないが、刃物など危険物は夜間のみ鍵のかかる所に保管するようにしている。	○	過去に異食した方もいらっしゃたので、鍵をかけれる保管場所は確保しているにので、状況にあわせて考慮していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月リスク会議を開いたり、毎日、小さいことでも事ある毎に話し合いをし、事故の再発が無いように取り組んでいる。	○	毎月のリスク会議は継続していき、リスクの勉強会も開き、事例発表をして見たい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各階の責任者にはAEDの研修に参加させたりはしたが、今年度の新人にはまだ初期対応の訓練を行っていないので行いたいと思う。	○	特養においてAEDの講習会を開く際に、参加する予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	今年度1回も行う事ができなかった。	○	年度始めに日程を決め必ず実施するようにする。また、地域の人たちの協力をえられるような働きかけをしていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の方々には面会があったとき、必要があれば話を伝え、話し合いの機会をもっている。家族会では総会時に毎年リスクに関しての話し合いをしている。	○	リスクに関しては一人ひとりのご家族と常日頃じっくり今後ありえる可能性を話、ご家族の意向をはっきり明確にしていけることが、求められていると思う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段から、入居者の体調の状態を知って少しでも変化があった時は、緊急に職員間で話し合い、通院するか、往診してもらうか、救急車を要請するかを判断する。	○	心身の状態の変化を見逃さない為に日頃の利用者の状態の把握に努め、変化にもすぐに対応できるように緊急時対応のマニュアルをもとに勉強会を行っていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬については、担当職員が把握しており、症状の変化についても職員同士、常に情報交換し、その都度、話し合いを持ち、確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘については、その悪影響が広範囲にあることを職員は周知しており、日常的に、カスピ海ヨーグルト等に対応し、リハビリ体操、ラジオ体操を行なっている。夏場は、毎日のように散歩に出かけている。	○	便秘の解消のリハビリを特養のPTにも聞いてみる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯科往診時の指導を受け一人ひとりの状態を把握し毎食後のうがいは出来る方は必ず自分でおこなっている。出来ない方に関しても介助、又は見守りで行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は全員チェックし栄養補助食品などで補ったり、好きなものを出し食べていただいたりして一人ひとりの状態を把握している。	○	重介護の方が増えてきているなかで、特養の栄養士との連携を図り、勉強会をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては徹底して予防している。	○	感染症がはやる時期には必ず会議に於いて再度確認することを徹底する。

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後は必ず食器類は消毒し、食材に関しても国内産や無添加のものを使用するようにしている。	○	食事の手伝いをしてくれる利用者は必ず、酸性水での消毒を行うことが定着している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	常に玄関は開放しており、花壇や畑をつくり近隣の方々も気楽に立ち寄って行っている。	○	今年度は近隣に住むお年寄りの状態を把握して、気楽にホーム内にも遊びに来ていて抱くような取り組みをして行きたいと思っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や旬の食べ物の提供によって季節感を損なわないようにしている。また、季節ごとにフロアーの花や、飾りを入居者と一緒に替えている。	○	その時の利用者の状況に合わせ、フロアーの分け方を変えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりが居心地の良い場所があるように本人の状態に合わせて、フロアーを4箇所に分け自由にその日の気分にあわせて居る場所を本人に任せている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にご家族と相談しながら、今まで使っていたものはそのまま持ってきてもらったり、居室に関してはご本人の思い通りにして頂いている。	○	本人が居心地良く過ごすためになにが大切かを常に職員間で話し合い一人ひとりがリラックスして生活してもらえるような支援を目指している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないう換気や温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に換気扇を設置し、温度計や加湿器も必要な方には置いて頂いたり、洗濯物で湿度を調整したりしている。気温に関しては職員が夜間・日中に訪室し本人と一緒に温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

ユニット はるか

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの体調や状態を把握し、フロア内にある手すりの位置を考慮しながら、食卓、花壇、ソファ等の配置を工夫している。 また、浴室内に必要になった手すりを設置している。	○	今後も利用者の状態に合わせて安全で自立した生活が送れるようにその都度必要な事を考え実施して行きたいと思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に出来る事出来ない事を職員が見極め、その日によって状態が代わる方もいるので、すぐに決め付けてしまわず、出来る事は自分でできるだけ行ってもらうように声掛けなどを工夫し支援するようにしている。	○	今年度は、あかねはもう一度初心に返ってできる事、できない事を見極める為に個々に深く関わる事で、本人の思いを引き出しながら、混乱や失敗を極力防ぐように個人に合わせた声かけをして行きたいとおもっている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	食堂ソファから前庭を見ることができるので、季節により、花壇の花を中から楽しみ、時には、花瓶にいけたりしている。 畑の野菜は、時期になると、自ら収穫に専念する方もいる。 また、暖かい日は、前庭で昼食を食べたり等、日常的に利用している。	○	ベランダ前や2階の踊場にもプランタンを置き、花の好きな方の為に工夫したいと思っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）認知症の対応に関しては、一人一人、日々見極めながら、丁寧な対応を 職員全員がしていると思う。それが職員のやりがいにもなっていて、認知症対応に関して、プロ意識を持ち誇りとしている。